

日语学习文选

第六集

商务印书馆

日语学习文选

(第六集)

商务印书馆

1993年·北京

内 容 提 要

本文选是以大学日语专业二、三年级以上的学生或具有同等学力的日语自修者为对象,以精读为目的的日汉对照注释读物。本集共选短篇文章五篇,大都是日本近代和当代著名作家的作品。其中有林芙美子的《清贫的书信》和《手风琴和渔镇》、畑正宪的《回忆父亲》、山内谦吾的《筑路工人》以及井上靖的《晚夏》。

文章语言规范,笔调清新,风格各异。每篇文章前都加了作者和作品简介,正文采用日汉对排的方式,并加注释,日文汉字全有注音,以便对照阅读。

RÌYÙ XUE XÍ WÉN XUǎN

日 语 学 习 文 选

第 六 集)

含英、子皿等 译注

商务印书馆出版

(北京王府井大街36号 邮政编码 100710)

新华书店总店北京发行所发行

河北三河市艺苑印刷厂印刷

ISBN 7-100-01029-2/H · 353

1993年9月第1版

开本 787×1092 1/32

1993年9月北京第1次印刷

字数 164 千

印数 0-1000 册

印张 8 1/2

定价: 4.50 元

目 次

一、清貧の書	林芙美子（含英译注）	2
二、父の思い出	畑正憲（子皿译注）	80
三、風琴と魚の町	林芙美子（陈力卫译注）	120
四、線路工夫	山内謙吾（高文汉译注）	184
五、晩夏	井上靖（李西贝译注）	226

せい ひん しょ 清 貧 の 書

はやし ふみこ
林 芙美子

含英 译注

一

わたし なが あいだ ひとり す こと ねが くら
私はもう長い間、一人で住みたいという事を願って暮
した。ふるさと ふるさと かぞくたち わす は いま
した。古里も、古里の家族達の事も忘れ果てて今なお私の
こ せき うえ まっしろ とお にくしん きおく なか うす
戸籍の上は、真白いままで遠い肉親の記憶の中から薄れか
けようとしている①。

ただ はは つま が たびたび てがみ
只ひとり母だけは、跌ずき勝ちな② 私に度度手紙をくれ
て叱って言う事は、

おまえは、おかあさんでも、おとこうんがわるうて、くら
うしていると、ふてくされてみえるが、よう、むねにてをあ

〔作者和作品介绍〕 林芙美子（はやしふみこ）1903—1951 日本女小说家。生于山口县下关市，毕业于尾道高等女子学校。由于长期生活在贫困的环境中，过着颠沛流离的生活，1930 年以此为素材，写出了长篇自传体日记小说《流浪记》，从此登上了文坛。并以《清贫的书信》、《风琴和渔镇》、《闪电》等作品确立了其抒情充沛的人生派作家的地位。作者曾三次来华，战后发表有《晚菊》、《浮云》等优秀作品，此篇选自《日本文学全集（48）》林芙美子集。 ①「古里も古里の家族達は事も忘れ果てて……戸籍の上は、真白いままで……記憶の中から薄れかけようとしている」这个句子因开头有“私は”，因而省略了主语；两个并列的“も”，是提示助词，起并列作用，表示同类的共存。“果てる”在这里用作结尾词，表示完全，全然，“忘れ果てる”忘得精光。“戸籍の上は真白いまま

清贫的书信

一

很久以来，我就想一个人生活。故乡和那里的家属们已忘得一干二净，在我的户籍上至今还是一片空白。在那些远亲们的记忆中，我也快要被他们淡忘了，只有我那老母亲，还不时地写信，教诲我这个一再遭受磨难的女儿。

——你要扪心自问一下，妈妈我也是运气不好，没有找到个好丈夫，一操劳起来就象闹情绪似的。我也深信，你有主心骨，可总是这么轻率地改嫁，我也为你难过，前些天你来信跟我要五块钱，正赶上你外婆死了，连出殡的钱都没有，你也会知道的。你父亲就是那么一个人，说来，他也真能吃苦。这些日子，总是拿着一个只浇点酱油的盒饭到海兵团给人家搬运煤炭。五块钱还给不了你，信里给你夹了两块钱，你就将就些吧。给你写这封信，整整花了一天的功夫，头也疼得发昏。要是回家的话，就两个人一块儿回来吧。妈妈

我一拿出母亲这封已经晒得有气味的信，泪水不禁夺眶而出。“谁会回去呀，回去也填不饱肚子……等着瞧吧！”母

で”户籍上空空如也，表示一种状态。“……記憶の中から薄れかけようとしている”意思是“从……的记忆里快要淡忘下去了。” ②「跌ずき勝ちな」「つまずき」是动词“つまずく”的连用形，后接接尾词“勝ち”（读がち）表示：常常，往往，好……。“跌ずき勝ち”屡受挫折，是“私”的定语。

ててかんがえてみい①。しっかりものじゃ、ゆうて、おまえを、しんようしていても②、そうそう、おとこさんのなまえがちごうては、わしもくるしいけに③、さっち五円ごえんおくってくれとあったが、ば々さがしんで、そうれんもだされんのを、しててであろう④。あんなひとじゃけに、おとうさんも、ほんのこて、しんぼうしなはって、このごろは、めしのうえに、しょおゆうかけた、べんとうだけでもって、かいへいだんに、せきたんはこびにいっておんなはる⑤、五円なおくれんけん、二円はいれとく、しんぼうしなはい⑥。てがみかくのも、いちんちがかりで、あたまがいとうなる。かえろうごとあったら、二人でもどんなさい⑦。

はは。

ひなたくさい母の手紙を取り出しては、^{なみだ}涙をじくじくこぼし、「^{だれ}誰が^{いなか}かえってやるもんか、^{かえ}田舎へ^{めし}帰っても^{まんぞく}飯が満足に^く食えんの……今に見い⑧」私は母の手紙の中の、^{ななか}義父が^{しょうゆう}醤油をかけた^{べんとう}弁当を持って^{まいにちかいへいだん}毎日海兵団へ^{はたら}働きに行っているという事が、^{いちばんむね}一番胸にこたえた⑨。——もう^{とうきょう}東京に来て^き四年にもなる。さして^{ねん}遠い^{とお}過去^{かこ}ではない。

①「おまえは、おかあさんでも、おとこうんがわるうて、くろうしてると、ふてくされてみえるが、よう、むねにてをあててかんがえてみい」这里的主语是“おまえは”，谓语是“かんがえてみい”。“おかあさんでも…ふてくされてみえる”是“かんがえてみい”的内容。でも：提示助词，这里表示连…也如此，其它情况当然…。“男運が悪うて”直译为“男人的运气不好”，是指“运气不好，没有找到个好丈夫”。悪う：关西方言，等于“悪く”，动词“ふてくされる”意思是（因心中不满）怏气，闹情绪。“みえる”在这里作“看样子是……”“よ

亲信中最打动我心房的，倒是父亲每天拿着一个浇点酱油的盒饭到海兵团去给人家干活儿。

——来到东京已经四年了，可这并非遥远的过去。

う”等于“よく”，“みい”方言，等于“みなさい”。“むれにてをあててかんがえてみい”“手拍胸脯想怨”或“扪心自问”。②「しっかりものじゃ、ゆうて、おまえを、しんようしていても」“しっかりもの”意思是“刚强的人”，“有主心骨的人”。じゃ：方言，等于“だ”或“である”；“ゆうて”相当于“といつて”。ても：接续助词，相当于汉语的“虽然……可是……”，意思是：虽然相信你有主心骨，可是……。

③「そうそう、おとこさんのなまえがちごうては、わしもくるしいけに」そうそう：副词，意为“那样常常地，那样屡次”；ちごうては：方言，等于“ちがってば”；けに：关西方言，等于接续助词“から”，表示原因、理由。

④「ばあさんがしんで、そうれんもだされんのをしってであろう」这句话等于“ばあさんがしんで、そうれんもだされなかったのを知っているでしょう”。そうれん（葬殓）：名词，出殓的意思。意思是：你外婆死了，出不了殓，这你也会知道的。

⑤「あんなひとじゃけに、おとうさんもほんのこて、しんぼうしなはって……せきたんはこびにいておんなはる」这句话的主语是“おとうさんも”，它的谓语有“……もって”和“はこびにいておんなはる”。“ほんのこて、しんぼうしなはって”是状语，“あんなひとじゃけに”等于“あんなひとだから”，意思是“你父亲，他就是那么一个人”。ほんのこて：方言，等于“ほんとうのこと”，感叹句，意思是“说实在的”。“しんぼうしなはって”相当于“しんぼうしなさって”，意思是“能将就，能忍受”。“せきたん”后面省略了宾格助词“を”，おんなはる：关西方言，相当于“おなさる”，是“する”的敬语表达形式。

⑥「五円なおくれんけん、二円はいれとく、しんぼうしなはい」な：终助词，让对方同意的口气。おくれんけん：方言，等于“おくれなくて”，“いれとく”等于“いれておく”，“しんぼうしなはい”等于“しんぼうしなさい”，这与前一句的“しんぼうしなさって”意思一样。

⑦「てがみかくのもいちんちがかりで、あたまがいうなる……二人でもどんなさい」这是关西方言。等于“てがみをかくのもいちにちがかりで、あたまがいたくなる……たら，二人でもどりなさい”。意思是“我写这封信，用了一整天的功夫，头也疼得发昏，要是……的话，就两个人一起回来吧。”

⑧「田舎へ帰っても飯が満足に食えんのに……今に見い」“田舎へ帰る”是指回农村生活。のに：这里作终助词用，表示不满意的语气。“今に見い”等于“今に見ろ”，等着瞧吧！在此有下定决心的意思。

⑨「胸にこたえた」词组，深受感动。

私は、その四年の間に三人の男の妻となった。いまの、その三人目の男は、私の気質から言えばひどく正反対で、平凡で誇張のない男であった。譬えて言えば、「また引越しをされたようですが、今度は、淋しいところらしいですね」このように、誰かが私達に聞いてくれるとすると①、私はいつものように楽しみに「え々こんなに、そう、何千株と躑躅の植っているお邸のようなところですよ」と、私は両手をひろげて、何千株の躑躅が如何に美しいかという事を表現するのに苦心をする②。それであるのに③、三人目の男はとんでもなく白気きった顔つきで、「いや二百株ばかり、それも極くありふれた、種類の悪い躑躅が植えてある荒地のような屋敷跡ですよ」という。で④、私は度度引込みのならない恥ずかしい思いをした。それで、まあ二人にでもなったならば思いきり立腹している風なところを見せようと考えていたのだけれど、——私達は一緒になって間もなかったし、多少の遠慮が私をたしなみ深くさせたのであろうか、その男の白白とした物言い⑤を、私はいつも沈黙って、わざわざ報いるような事もしなかった。

もともと、二人目の男の妻になった過去を持っていて——私はかつての男たちの性根を、何と言っても今だに煤けた標本のように、もうひとつの記憶の埒内に固く保存しているので⑥、今更「何ぞ彼ぞ」と言い合いする事は大変面倒な事でもあった。

① 「……このように、誰かが私達に聞いてくれるとすると」若是有

我在这四年当中嫁过三个男人。现在的这第三个丈夫，与我的性情截然不同。他是一个极为平凡而又不会夸耀的男人。就说搬家吧，“听说你们又要搬家了，这回搬去的那个地方大概很僻静吧”。无论谁，一向我问起这件事，我总是和往常一样，以快活的口气说：“啊，是要搬啦，地方不错，那儿还种着几千棵杜鹃花，象所大宅邸似的。”我摊开双手比划着，力图表现出那里几千棵杜鹃花如何的美丽。尽管我这么作，而我那第三个丈夫却以一副极其扫兴的面孔言道：“哪里，不过就二百来棵，而且都是些极普通的、品种差的杜鹃花，倒象是一所荒凉的宅地。”就这样，他常常使我感到被动，予人难堪。若是只我们两个人的话，我真想狠狠地给他点颜色看看。然而，我们结婚没多久，或许多少还要忍让些的心情使我增加了修养，对于他这种令人扫兴的说法，我总是保持沉默，从未故意找碴儿报复过。

我本来就嫁过两个男人。而那两个男人的秉性，不拘怎么说，还象熏得发黑的标本一样，牢实地保留在我的另一个记忆圈里，如今再“说长道短”地去分辨，也未尝不是一件麻烦事。

人这样问起我来的话……。誰か：不定称疑问代词，“谁、某人”。……とすると：如果……的话……。前面的“と”是格助词，指出后面动词“する”的内容；后面的“と”是接续助词，表示前提条件。②〔……を表現するのに苦心をする〕の：形式体言；に：格助词，这里“表現する”用的体言化，再用に，作“苦心をする”的补语；苦心をする：煞费苦心，绞尽脑汁。③〔それであるのに〕连语，与此相反。④〔で〕接续词，因此。等于“それで”，“于是”，“因此”。⑤〔白白とした物言い〕白白と：副词，意思是令人扫兴；物言い：名词，讲话，说法。⑥〔……ように，もうひとつの記憶の埒内に固く保存しているので〕象……一样，牢实地保留在我的另一个记忆圈里。埒内：范围内，限度内。ので：接续助词，接在用言连体形下，表示原因或理由。

二

三人目の男が、私を三人目の小松与一に結びつけたにつ

いては――

お前を打擲すると

初々と米を炊ぐような骨の音がする

とぼしい財布の中には支那の銅貨が一ツ①

叩くに都合のよい答だ

骨も身もばらばらにするのに

私を壁に突き当てては②

「この女メ③ たんぼ々が食えるか!」

白い露の出たたんぼ々を

男はさきさきと噛みながら

お前が悪いからだと

銅貨の答でいつも私を打擲する。

二人目の男の名前を魚谷一太郎といって、「俺の祖先は、
渡り者かも知れない。魚を捕ってカツカツ食って行ったの
であろう」そういいながらも、貧乏をして何日も飯が食えぬ
と私を叩き④、米の代りにたんぼ々を茹でて食わせたと言
うては殴り、「お前は どうして そう下品な女のくせが抜けな
いのだ。衿を背中までずっとかすのはどんな量見なんだ
⑤」と、そう言って打擲し、全く、毎日私の骨はガラガラと

① [とぼしい財布の中には支那の銅貨が一ツ] 庵钱包里只剩一枚中国铜板。“一ツ”后面略去“残っている”。这是一首诗的第三句。 ② [私を壁

二

对第二个男人，使我和第三个男人小松与一结合起来一事——

我一揍你，
骨头节微微发出象烧饭那样的响声，
空瘪的钱袋里只剩一枚中国铜板，
揍你是正合适的鞭子，
为使骨头和身子都散架，
把我往墙上撞去。
「你这个贱货！蒲公英能吃吗？！」
他咔喳咔喳地嚼着，
渗出白汗的蒲公英，
口称因为你坏，
总是用铜板的鞭子揍我。

第二个丈夫名叫鱼谷一太郎。“我的祖先也许是个流浪汉，捕着鱼就嘎吱嘎吱地生嚼。”他虽然这么说，可是一旦穷了，连续几天吃不上饭，便拿我出气，说我煮蒲公英当米饭给他吃了，一边揍一边还说：“你就是改不了那种下贱女人的坏习气，把领子竟拉到脊背上，你安的是什么心？”我的骨头每天

に突き当てては）把我往墙上撞去。て：接续助词，接在动词“突き当てる”的连用形后，表示动作的反复。は：提示助词，表示强调。③〔女メ〕メ：接尾词，它接在体言下，表示轻蔑。“女メ”相当于汉语的“臭娘们”、“贱货”。④〔貧乏をして何日も飯が食えぬと私を叩き〕ぬ：否定助动词，语气比“ない”较为郑重。と：接续助词，表示顺态确定前提，前件事一发生，后件事就要随之而来。相当于汉语的“一……就要……”或者“一……总是……”。⑤〔衿を背中までずっつかすのはどんな量見なんだ〕衿：和服领子，ずっ：接头词，这里起加强语气的作用，它接在动词“つかす”的前面，表示把衣领竟拉到脊背上，是艺妓穿和服的样式。量见：不好的念头或动机。

くず いきそう う ため せんざい
崩れて行きそうで打たれる為の①デクのような存在であつた。

私はその男と二年ほど連れ添っていたけれど、肋骨を蹴られてから、思いきって遠い街に逃げて行ってしまった②。街に出て骨が鳴らなくなっても、時々私は手紙の中にいちえんさつ 壱円札をいれてやっでは、「殴らなければ一度位は会いに帰ってもよい」という意味の事を、その別れた男に書き送ってやっていた。すると別れた男からは、「お前が淫売をしたい故、衿に固練の白粉もつけたい故、美味しいものもたらふく食べたい故、俺から去って行ったのであろう③、俺は今日で三日も飢えている。この手紙が着く頃は四日目だ、考えて見る」――

この華やかな都会の片隅に、四日も飯を食わぬ男がいる。働こうにも働かせてくれぬ社会にいつもペッペッと唾きを吐き、罵りわめいている男がいる④ 私はこのような手紙には何としても返事が書けず⑤、「貴方ひとりに身も世も捨てた」という小唄をうたって、誤魔化して暮していた。

間もなく、魚谷という男も結婚したのであろう、大変楽しげな姿で、細々とした女と歩いているのを私は見た事がある。丁度、そのおり、私は白いエプロンを掛けていたの⑥、呼び止めはしなかったけれど、私も早く女給のよう

① [……打たれる為の]打たれる是“打つ”的被动式；為：形式名词，接在用言连体形下，表示目的，为了挨打的。 ② [思いきって遠い街に逃げて行ってしまった]思いきって：这里作副词用，意思是“下定决心；毅然决然；速

被他打得嘎吱嘎吱响，整天就象个为了挨打的木偶似地活着。

我同这个男人一起生活了两年多，他踢了我的肋骨之后，我才下定决心逃到了一个很远的镇上。来到镇上等骨头不响之后，我还时常在信里夹上一元钱寄给他，信中表示“如果不再打我，我还可以回去一趟看看你。”可是分了手的男人却这样答复说：“你不就是为了要卖淫，为了给衣领上抹上厚白粉，为了好吃好喝才离开我的吗？我到今天已经三天没饭吃了，当你收到这封信时就是第四天了，你想想看吧。”——

在这繁华城市的角落里，竟有一个四天混不上饭吃的男人。对于这个想工作也不让工作的社会，这个男人总是呸，呸地吐唾沫，叫骂不已。对这样的信，我无论如何也不能写回信。我每天嘴里哼唱：“为了你一个人，我抛弃了自己和社会”的小调，糊里糊涂地打发日子。

不久，鱼谷象是结婚了。我曾看见他很快活地和一个瘦弱的女人一起行走。当时，我正好系着白围裙，因而没有叫住

い街：很远的镇上。“逃げて行ってしまった”是由动词“逃げる”和补助动词“行ってしまった”复合而成，意思是“逃掉了”。③「お前が……故……故……故……故……俺から去って行ったのであろう」这是一个并列句，三个“故”都是说明“去って行った”的原因的，相当于汉语的“你不就是为了……，为了……，为了……才离开我的吗？”④「動こうにも働かせてくれぬ社会にいつもベッベッと唾きを吐き、罵りわめいている男が…」这句话的主语是“男が”从“働こうにも……罵りわめいている”都是“男が”的定语成份。“働こうにも働かせてくれぬ”是“社会”的定语，意思是“即使想工作也不让工作”。格助词“に”在此处表示动作、作用的对象。ベッベツ：象声词，相当于汉语的“呸！呸！”。罵りわめいて：复合动词，是由“罵る”和“喚く”复合而成的，意思是“叫骂、大声咒骂”。⑤「何としても返事が書けず」なんとしても：副词，等于“どうしても”无论如何也……。ず：否定助动词“ぬ”的连用形，表示中顿。⑥「私は白いエプロンを掛けていたので」因我做女招待系着白围裙，“エプロンを掛けて”即“当女招待”的意思。

な仕事から足を洗わねばならぬと①、地獄壺の中へ、働いただけの金を落して行く事を楽しみとしていた。

それから——幾月も経たないで、正月をその場末のカフェーで迎えると、又、私は三度目の花嫁となっている与一と連れ添い、「私はあれ程、一人でいたい事を願っていたが、何という根気のない淋しがりやの女であろうか②」という事をしみじみ考えさせられていた。

三

「君は前の亭主にどんな風に叱られていたかね……」

与一は骨の無い方の鰯の干物を口から離してこういった。

「叱られた事なんぞありませんよ」

「無い事はないよ、きっときつい目に会っていた③と思うね」

私は骨つきの方の鰯をしゃぶりながら風呂屋の煙突を見ていた。「どんなに叱られていたか」何という乱暴な聞き方であろう、私は背筋が熱くなるような思いを耐えて、与一の顔を見上げた。与一はくずぬいて箸を嘗めていた。私は胃の中に酔が詰ったように、—— 喉が腫れ上って来た。

「どうして、今更そんな事を言うの、私を苛めてみようと思うンでしょう、—— ねえ、どんなに貧乏しても苛めないで

① [足を洗わねばならぬと] 足を洗う：慣用語、洗手不干、……ねばならぬ：慣用型、必須……、一定……。 “と” 后面省略了谓语。 ② [……何と

他。不过，那时我已经决心不再干女招待那种行当了，使人欣慰的是，往扑满里装入的钱都是靠我劳动挣来的。

此后没有几个月，在偏僻郊区的一个咖啡馆里度过新年以后，我又第三次做了新娘，和现在的与一结了婚。当时我痛切地感到，自己该是一个多么缺乏毅力、不甘寂寞的女人啊，那么坚决一心想要过独身生活，竟又结婚了。

三

“你是怎样被前夫责骂的……？”

与一放下送到嘴边的没有刺的干竹荚鱼片，这样问道。

“责骂什么的，没有的事。”

“不会没有，我想你一定吃了不少苦头。”

我一边嘲着带刺的竹荚鱼，一边了望着澡堂的烟囱。“是怎样责骂的？”这该是多么粗鲁的问法。我感到脊梁一阵发烫，强抑制着，抬头望了望与一的脸。与一慢腾腾地嘲着筷子，我如同胃里灌了醋一般，眼皮一下子肿了起来。

“为什么事到如今还提这种事？莫非你想要欺负我不成？——不管怎么贫穷，可不要虐待我，可别再揍我，我们并不指

いう根気のない淋しがりやの女であろうか] 何という：连语，多么、何等的意思。“根気のない”等于“根気がない”，没毅力。淋しがりや：不甘寂寞的人，不堪孤寂的人。や：接尾词，接在表示性格、特性等词后，含有轻蔑的意思。か：终助词，表示自问。⑧ [きつい目に会っていた] まつい目：连语，苦头，倒霉，会っていた：碰上了。

くだ なが いじょう わたしたちゆた
下さいよ、殴らないでよね①、これ以上 私達豊かになろう
なんて見当^{けんとう}もつかないけれど、これ以上に食えなくなる日^ひ
は、私達の上に度々あるでしょうし、でも、貧乏^{びんぼう}するからと
いって②、私^{わたし}の体^{からだ}を打^{うち}擲^{ちやく}しないで下さい。もしも、どう
しても殴るといふのなら、私は……また貴方^{あなた}から離れな
ければならないもの、それに、私は今度^{こんど}殴^{なぐ}られたら、グラグ
ラした左^{ひだり}の肋骨^{ろっこう}の一本^{いっぽん}は見事^{みごと}に折^おれて、私は働^{はたら}けなくなっ
てしまうでしょう」

「ホウ……そんなに前の男^{まえのおとこ}は君^{きみ}を殴^{なぐ}っていたのかね」

「ええこのボロカス女^いメ③と言^いってね」

「道理^{どうり}で君^{きみ}はよく寝言^{ねごと}を言^いっているよ。骨^{ほね}が飛^とぶからカ
ンニンしてッ、そう言^いって夢^{ゆめ}にまで君^{きみ}は泣^ないているンだよ」

「だけど——けっして、別^{わか}れた男^{おとこ}が恋^{こい}しくて泣^ないている
んじゃないでしょう。あんまり苛^{いじ}められると、大^{いぬ}だっ^{ねごと}て寝言^{ねごと}
にヒクヒク泣^ないているじゃありませんか④」

「責^せめているわけじゃない⑤。よっぽど辛^{つら}かったのだろう
と思^{おも}ったからさ」

「この鰯^{あじ}はもう食^たべませんか」

「ああ」

飯台^{はんたい}が小^{ちい}さい為^{ため}か、魚^{さかな}が非^ひ常^{じょう}に大^{おお}きく見^みえた。頭^{あたま}から
尻尾^{しっぽ}まで魚^{めし}を飯^{めし}の菜^{さい}にする⑥という事^{こと}は久^{ひさ}しくない事

①……殴らないでよね]“で”妇女口头用的终助词，表示愿望、请求。接
助动词[“ない”时，构成“～ないで”、“～ないでよ”或“ないでよね”。 ②
[これ以上に食えなくなる日は、私達の上に度々あるでしょうし、でも、貧乏